



青年農業者  
島仲 信八 (しまなか のぶや)  
プロフィール

1971年12月11日生まれ 竹富町出身  
竹富町字黒島に生まれ、幼い頃から畜産業に興味を持つ。沖縄県初の酪農ヘルパーの資格を取得し、子牛繁殖のために尽力。  
JA青壮年部意見発表で県代表として九州大会に出場。JA青壮年部黒島支部長を務めるなど、地域農業の発展に貢献している。

**島への帰郷、そして今**  
黒島に帰ってきた当初は、牛がストレスをためないように、タイヤをぶらさげて牛の遊び道具にしたり、音楽を聞かせたりと、色々なことをしてみんなに不思議がられていましたね。  
牛は育て方や育てている場所によって肉質が変わり、値段も変わるんです。いい牛を育てれば、高い値がつく。体重、系統にもよりますが、黒島では牡牛は一頭あたり四十四万円、雌牛は三十九万円くらい。全国レベルの牛になると五十五万円くらいで取引されます。生まれた時から育てている子牛がセリで高い値をつけられた時は、すごく嬉しいですね。

おきなわ  
夢人列伝  
ゆめんちゅれつでん

**島の未来を見据えた夢**

最近、同級生や後輩たちも畜産の技術を学んで島に戻ってきているので、セリの時に自分の牛がどれだけ高く売れるか競いあったり、二月末にある「牛祭り」と一緒に盛り上げながら、黒島のために頑張っています。  
昔からこの仕事をするのも黒島に戻ることにも何も迷いはなかったし、今も他の仕事に興味はありません。畜産業一筋です。でも、子牛繁殖の技術は年々進んでいますし、自分のやり方みたいなものが完成しているわけ

ではないので、まだまだ勉強が必要だと感じます。  
黒島は今、着実にいい牛が育つていて、東北から黒島の牛をわざわざ買ってくる人もいます。今後の目標は、子牛の繁殖だけでなく、成育、販売まで行い「黒島牛」ブランドを作り、観光地として盛り上げていけたらと思います。そのためには、もっといい牛を育てて、買ってくれる人を納得させていくこと。新しい牛ブランドで、この島の発展に貢献できたらと思っています。



**揺るぎない島への思いと、変わらぬ畜産への情熱。**

好きで、父の趣味だった闘牛と一緒に見に行ったり、父の仕事の手伝いをするのが苦ではなかったんです。でも、時々、牛に水をやるのを忘れて学校に行ったりして、父が迎えに来ることもありましたよ(笑)。



僕は黒島で、畜産業をしています。具体的には、肉牛を繁殖しています。繁殖農家は、雌牛に産ませた子牛を八ヶ月から十ヶ月くらいまで育てて、セリにかけて販売するまでが仕事です。セリで買われた子牛は、全国各地の肥育農家で育てられ、神戸牛や松坂牛など育てられた土地の名前がついた肉牛になります。  
僕は九人兄弟で兄や姉がいるのですが、元々、父がしていたこの仕事を継ぐ者がいなかったんで、「それなら自分が継ぐ」と思い、中学のときにこの仕事を継ぐことを決めました。僕は、小さい頃から牛が

**畜産という仕事**

おきなわ  
**夢人列伝**  
ゆめんちゅれつでん

**畜産に夢を託し、黒島の未来を支える、若い息吹。**

島仲 信八

酪農農家なんですけど、付き合っている当時から妻の実家の手伝いをしていたので、その苦労を身近に感じていました。  
そういう経験もあったので、沖縄県酪農農業協同組合の推薦を受け、酪農農家をサポートする「酪農ヘルパー」の資格を取得しました。資格取得後に酪農ヘルパーとして二十五軒で約千頭の牛を見ていたんですが、始めた当時は、全然慣れなくて。農家の人も安心して任せられなかったんじゃないかと思いましたが(笑)。半年くらいたってようやく牛の癖を覚えたり、仕事の流れをつかむことができました。

**沖縄県初の「酪農ヘルパー」取得**

高校・大学と農業系に進んで、大学卒業後は、乳牛について実践で学ぶために酪農が盛んな宮崎県や福島県に行きました。繁殖農家にとって、丈夫な子牛を育てるには雌牛の母乳が大切ですから、乳牛を学ぶことも今の仕事に関わってくるんです。実際に、酪農農家の手伝いをして感じたのは、その大変さでした。牛の健康管理をしながら、朝晩の搾乳をしなければならぬので、毎日気がぬけません。  
今の仕事もそうなんですけど、牛は生き物ですから、畜産を営む農家は特に休む暇がないんです。僕の妻の実家も



た。乳牛を育てる技術は、酪農農家にとって企業秘密なので、聞いても教えてはくれませんが、でも、酪農農家の代わりに牛の世話をするヘルパーには教えなくてはいいじゃないですか、酪農ヘルパーをしたことで学ぶことは多かったです。

**編集後記**

休日に電気屋を訪ねると、新OS「ウィンドウズ ビスタ」を搭載した春モデルパソコンが並んでいた。「エアロ」とよばれる半透明の画面表示に自然と目がとまった。広報誌でも近未来感を表現できないかなあ? (ほり)

取材で南大東村に行ってきました。天気もよく、絶好の取材日和! 漁港から海を見ると鯨を発見! 初めて見る鯨。見えたのは尾ビレだけ。それでも感動し癒される。取材も含め実りの多い滞在でした(\*^\_^\*) (あるく)

沖縄県広報誌 平成19年3月1日発行第31巻3号通巻378号



企画・編集 沖縄県広報課 制作・印刷 株式会社 宣伝  
発行 沖縄県広報課 〒901-2122  
〒900-8570 浦添市勢理客四丁目15番15号  
那覇市泉崎1-2-2 電話 (098) 871-2111  
電話 (098) 866-2020

**沖縄県広報番組 テレビ・ラジオ**

**うまちゃんひろば**

**3月放送予定**

3日・4日 / 沖縄県地域づくりネットワーク  
10日・11日 / 工芸指導所展  
17日・18日 / 循環型社会を目指して  
24日・25日 / うまんちゅひろばのこの一年

テレビ / 放送時間

●RBC 6:15 ●GAB 11:30 ●OTV 11:30

<http://www.pref.okinawa.jp/> 沖縄県ホームページ→広報課(テレビ・広報誌等)

**ラジオ県民室**

「ラジオ県民室」ではお昼のひととき、県が実施する行事、催し物、各種試験や募集のお知らせなどを行っております。

ラジオ / 放送時間 毎週月曜日～金曜日

●ラジオ沖縄(864KHz)12:10～12:15  
●RBCラジオ(738KHz)11:55～12:00  
●FM沖縄(87.3MHz)12:55～13:00

番組に対するご意見・ご感想をお待ちしております。 県広報課 TEL.098-866-2020 FAX.098-866-2467 e-mail:kouhou@pref.okinawa.lg.jp